

KAWABATA, S. 1963. A contribution to the systematic study of Grateloupiaceae from Japan (2). J. Hokkaido Gakugei Univ. 13(2): 31-51.  
 KRAFT, G. T. and ROBINS, P. A. 1985. Is the

order Cryptonemiales (Rhodophyta) defensible? Phycologia 24: 67-77.

TANAKA, T. and NOZAWA, Y. 1960. One red algal parasite from Japan. Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ. 9: 107-113.

川口栄男・吉田忠生：寄生紅藻キントキヤドリ *Kintokiocolax aggregatocerantha*  
 TANAKA et Y. NAZAWA の分類学的位置

キントキ *Prionitis angusta* (= *Carpopeltis angusta*) 上の寄生紅藻として知られる本種は、助細胞と造果枝が直接連結する (procarpic) という原著者らの解釈に基づき、スギノリ目 Gigartinales の種として発表された。しかし、和歌山県と千葉県で新たに採集された材料を詳しく調べた所、その雌性生殖器官の構造には、原報告と明らかに異なる点が見出された。すなわち、助細胞と造果枝は離れて、それぞれ別の二次的に形成された枝叢中に存在した (non-procarpic)。

この違いを基準標本について検討した結果、著者らの観察事実と一致した特徴を有することが確認された。従って、本種はカクレイト目 Cryptonemiales ムカデノリ科 Halymeniaceae に属するとの結論に達した。(060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部植物学教室)

新刊紹介

R. F. SCAGEL, D. J. GARBARY, L. GOLDEN & M. W. HAWKES (1986) **A Synopsis of the Benthic Marine Algae of British Columbia, Northern Washington and Southeast Alaska**. Phycological Contribution No. 1, The University of British Columbia, Vancouver, Canada. 444 pp. 22.5 カナダ\$ (含船郵送料, 邦貨約 2,800 円)

本書はカナダの太平洋沿岸における初めての本格的な海藻のチェックリストである SCAGEL, R. F. (1957) "An annotated list of the marine algae of British Columbia and northern Washington" の続編である。1957年以降にこの海域から報告されている海藻の採集記録のほとんどすべてを網羅している。前書に収録されている 189 属 478 種をはるかに上回る 270 属 627 分類群が収録されている。その内訳は黄緑色藻類 3 属 6 分類群、緑藻類 45 属 102 分類群、褐藻類 66 属 130 分類群、紅藻類 156 属 389 分類群となっている。

本書は大きく 2 つの部分に分けられる。前半は各分類群の採集報告が 180 頁にわたって記載されており、後半に約 2000 点の文献のリストが 146 頁にわたって載

せられている。前半部の分類群名の後には、著者名や出典は勿論のこと Basionym やカナダ以外での世界各地の分布も書かれてあり、海藻の名前調べや分布調べにとっても便利である。言うまでもなく分類群の索引としても第 1 級の精度を持っている。しかしここまで述べてきた内容を持っているものは本書以外にもかなりある。本書のもっとも大きな特色は、収録されている文献の種類が分類学だけでなく、遺伝学、形態学、分布地理学、生化学、生理学、生態学など多方面にわたっていることである。様々な分野の研究材料として採集された記録をのこらず載せてあるので、本書は海藻を材料として用いる研究者にとって大いに役にたつ書であると確信できる。最近数多く出版される海藻フロラや海藻チェックリストのなかで本書はその白眉と言えるものである。入用の方は、R. F. SCAGEL, Dept. Bot., Univ. of British Columbia #3259-6270 University Blvd., Vancouver, B. C. V6T 2B1, Canada へ直接申し込むこと。(国立科学博物館植物研究部 田中次郎)

University of Tokyo. J. Gen. Appl. Microbiol. 6: 283-292.

WATANABE, T., ARAKAWA, T., KITAJIMA, C., FUKUSHO, K. and FUJITA, S. 1978a. Proximate and mineral compositions of living feeds used in seed production of fish. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish. 44(9): 979-984.

WATANABE, T., KITAJIMA, C., ARAKAWA, T., FUKUSHO, K. and FUJITA, S. 1978b. Nutri-

tional quality of rotifer *Brachionus plicatilis* as a living feed from the viewpoint of essential fatty acids for fish. Bull. Japan. Soc. Sci. Fish. 44(10): 1109-1114.

WHITTLE, S. J. and CASSELTON, P. J. 1975. The chloroplast pigments of the algal classes Eustigmatophyceae and Xanthophyceae. 1. Eustigmatophyceae. Br. phycol. J. 10: 179-191.

#### 丸山 功・中村寿雄・松林恒夫・安藤洋太郎・前田直彦：いわゆる海産クロレラの分類学的性質

水産種苗の初期餌料として重要なシオミズツボワムシの生産に広く用いられる海産クロレラと呼ばれる藻の一つについてその性質を調べた。この藻は通常1個のカップ型または卵型の葉緑体を有する球形あるいはだ円型の細胞であり、主な光合成色素として chlorophyll *a*, carotene, violaxanthin, vaucherixanthin ester を含んでいた。電顕観察の結果、核膜と連結したクロロプラストERが葉緑体を取り囲み、葉緑体を囲む膜は葉緑体包膜とクロロプラストERで4枚に観察された。ラメラは三重チラコイドラメラ構造をしていた。この藻は形態、微細構造、色素組成の特徴から現在のところ、真正眼点藻綱 *Nannochloropsis oculata* HIBBERD と同定するのが適当と思われる。(833 福岡県筑後市久富1343番地 クロレラ工業株式会社)

### 新 刊 紹 介

K. KRAMMER and H. LANGE-BERTALOT (1986) **Bacillariophyceae I. Teil: Naviculaceae.** In H. Ettl, J. Gerloff, H. Heynig and D. Mollehauser [eds.] Süßwasserflora von Mitteleuropa. Bd. 2. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart, New York. 876 pp. 206 図版 2976 図。(含船郵送料邦貨約 18000円)。

本書は“Süßwasserflora von Mitteleuropa”シリーズ24巻中の1つである。今回出版されたのは2巻1号で Naviculaceae を網羅しており、今後他の科についても2号、3号で出版される予定となっている。

内容は大きく2つに分けられており、第1部では、用語、殻の構造、生殖、細胞構造、殻形成、運動、生態、研究方法などが概説され、第2部でそれぞれの種について記述がなされている。ここで扱われている属は *Navicula*, *Stauroneis*, *Anomooneis*, *Frustulia*, *Amphipleura*, *Neidium*, *Scolioleura*, *Diploneis*,

*Pleurosigma*, *Gyrosigma*, *Cymbella*, *Amphora*, *Gomphonema*, *Gomphoneis*, *Didymosphenia*, *Rhoicosphenia*, *Caloneis*, *Pinnularia*, *Mastogloia*, *Diatomella*, *Oestrupia*, *Entomoneis* の22属である。全ての種類が光顕写真で示されており、一部には類似した種類間での相違点が電顕写真によって示されている。

本書は HUSTEDT の Bacillariophyta (1930) 及び Kieselalgen (1930~1966) が元になっており、材料の多くは HUSTEDT のコレクションの中から選ばれている。そして特筆すべきことはその中に多くのタイプ標本が含まれ、それが写真によって示されていることである。これは大変貴重なものであり、本書の価値を非常に高めるものであり、利用者にとっては大変有用なものとなるであろう。

(筑波大学生物科学系 出井雅彦)